

宗岡中だより



4月号 平成30年4月9日(月)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「菜の花の^き黄に包まれて 新学期」

校長 佐藤哲浩

学校の菜の花が満開になる心地よい季節を迎え、平成30年度の志木市立宗岡中学校の教育活動が始まります。お子様のご入学、ご進級、誠におめでとうございます。子どもたちは進学、進級を機に新たな志をもって張り切っていることと思います。この志を持ち続け、充実した中学校生活を送って欲しいと思います。

本年度は1学年128名、2学年121名、3学年133名、ひまわり学級8名、計390名、教職員44名でスタートします。目指す学校像「師弟同行」の具現化に向けて、教職員一同「チーム宗岡」で教育活動を推進してまいります。



私は、学校経営の基本理念を「不易流行」(学校は社会の流れの中で生きて、かつ流されてはいけない)と考えています。いかに社会が変化しようが、時代を超えて変わらない不易なるものがあります。豊かな人間性、正義を重んじる心、他人を思いやる心、自然を愛する心など、いつの時代の教育でも大切にされなければなりません。一方、学校は社会の潮流をしっかりと掴んでおく必要があります。なぜなら教育とは次世代の社会を担う人材育成という崇高なものだからです。そのためには、グローバル化などの急激な社会変化の中でも、生き抜くために必要な資質・能力をはぐくむことが大切です。

4月2日はほとんどの会社で入社式が行われ、新たな社会人が緊張と不安を抱えている場で社長が式辞や訓辞を述べたことと思います。過日、埼玉新聞を読んでいると、りそなホールディングスの東和浩社長が、新入社員を前に述べたメッセージに目が留まりました。「現状維持というのは一番危険な言葉、これからの時代に求められる人材は、柔軟な発想とスピード、そして時代の先端に立とうという気概である」と述べ、「正しいと思ったことにスピード感をもって行動に移し力のみなざる人になってほしい、そしてこの先大きな試練があっても情熱と創造力で新たな時代を切り開いてほしい」とエールを送ったそうです。

企業の経営者は学校の経営者より時代の先を見据え経営していると感じています。

目指す学校像 「師弟同行」

- 1 組織力を高め、生きる力をはぐくむ学校
- 2 教員の資質向上を図り、確かな学力をはぐくむ学校
- 3 保護者、地域住民との連携を深め、その地を支える学校